

# 家庭教育学級の学習形態と工夫



家庭教育学級の学習形態は大きく**5つの型**に分類できます。それぞれの方法や特徴、メリット、取組のポイントを参考にして、学級開催の計画を立てましょう。また、一つの型にとどまらず、組み合わせることで学びがより深まります。

## A 学校行事参加型

方法・特徴	メリット
就学時健診、授業参観、PTA 活動など、学校(園)の行事がある機会をとらえて開催する。	・参加者が集まりやすいため、多くの保護者に学びの場を提供することができる。
<b>【取組のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校(園)行事をそのまま家庭教育学級とするのではなく、学校(園)行事に参加している保護者に対してさらに学びの場を提供するという考え方で開催する。</li><li>・事前に打ち合わせをしておき、校(園)長、教頭、主幹教諭、養護教諭、栄養教諭などの講話には、テーマに沿った親としての学びにつながる内容を取り入れてもらう。</li><li>・主体的に参加者が増えるよう、学びの内容も含めて積極的に広報する。</li></ul>	

## B 体験活動参加型

方法・特徴	メリット
ヨガ、フラワーアレンジメント、料理、親子遊びなど、保護者自身のリフレッシュや家族のふれあいの場をつくる。	・カルチャースクール的な内容は参加者が集まりやすい。 ・家族のふれあいができる。
<b>【取組のポイント】(年間を通してこの学習形態ばかりにならないようにする)</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・保護者のみの場合はカルチャースクール的な内容だけで終わらず、家庭教育に関する情報交流や講話を取り入れ学びにつなげる。(例:料理の後、食育に関する栄養士の講話)</li><li>・親子参加の場合は、意図して父親の参加を促すなど、家族でのふれあいが深まりその後の発展が期待されるような工夫をする。</li><li>・活動の中に「よさ見つけ」を取り入れ、活動の終わりに互いのよさを交流する時間を位置づける。</li></ul>	

## C 講演会型

方法・特徴	メリット
テーマに適した講師を依頼し、専門的な話をしてもらうなど、課題に応じた学びの場をつくる。	・専門的な立場からの話を聞くことによって、より深く自分の思いや行動を振り返ることができる。
<b>【取組のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校(園)や教育委員会に相談して、テーマに適した講師を選定する。</li><li>・講演会は堅苦しいというイメージが強く、参加者が少ない傾向があるので、興味を引く案内チラシを作成するなど、広報活動を工夫する。</li><li>・保護者が参加しやすい開催時間や場所などを設定する。</li><li>・事前に、保護者に学びたい内容や講座内容にあわせた子どもの状況などについてアンケート調査をするなど、保護者のニーズをとらえたり、問題意識を喚起したりすると良い。</li><li>・講演を聞いた感想を交流する子育てサロンを取り入れると、学びが深くなる。また、在宅取組を組み合わせると、学んだことを実践に生かすこともできる。</li></ul>	

## D 子育てサロン型

方法・特徴	メリット
小グループの和気あいあいとした雰囲気の中で互いの経験や悩みなどを交流し、子育てのヒントをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話をすることによって悩みや不安の軽減、または解消ができ、自分の子育てに安心感や自信をもつことができる。</li> <li>・保護者同士のつながりができやすい。</li> </ul>
<b>【取組のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ人数は、誰もが話せるよう5～8人ぐらいとし、司会者(進行役)をおく。</li> <li>・司会者(進行役)は、話しやすい雰囲気づくりに心がける。</li> <li>・あらかじめテーマを設定してもよい。</li> <li>・お茶やお菓子があると和やかな雰囲気になり、ざっくばらんに話ができる。</li> <li>・体験活動参加型や講演会型と組み合わせると実践しやすい。</li> </ul>	

## E 在宅取組型

方法・特徴	メリット
読み聞かせ、弁当の日、早寝早起き朝ごはん運動、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動など、親子でできることを決め、各家庭で取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての保護者に家庭教育の重要性について働きかけることができる。</li> <li>・家族のコミュニケーションを深めることができる。</li> </ul>
<b>【取組のポイント】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭で継続して取り組めるよう、子どもの年齢や発達に応じた課題を設定する。</li> <li>・朝ごはん、靴そろえ、手伝い、読書、挨拶など、活動しやすい例を示す。</li> <li>・各家庭で、取組の足跡を残せるよう、記録用紙を準備して配布する。</li> <li>・学校(園)や地域、行政に協力を依頼し、園・学校ぐるみの取組にしたり、小・中学校区全体で一斉に取り組む活動にしたりすると効果が高まる。</li> <li>・親子で話し合ったりふれあったりすることを大切にする。</li> </ul>	

例えばこんな工夫もできます

◇組み合わせることによって効果がふくらみます！◇

【講演会型】+【在宅取組型】=学びを日々の生活に

【体験活動参加型】+【子育てサロン型】=楽しみと交流・学び

◇合同開催◇

他の幼稚園・保育所・認定こども園、小・中学校、市町村と合同で開催する。

→参加者増が期待できます。また、謝金の分担などもできます。

→小・中学校区で合同開催すると、より成果が期待できます。